

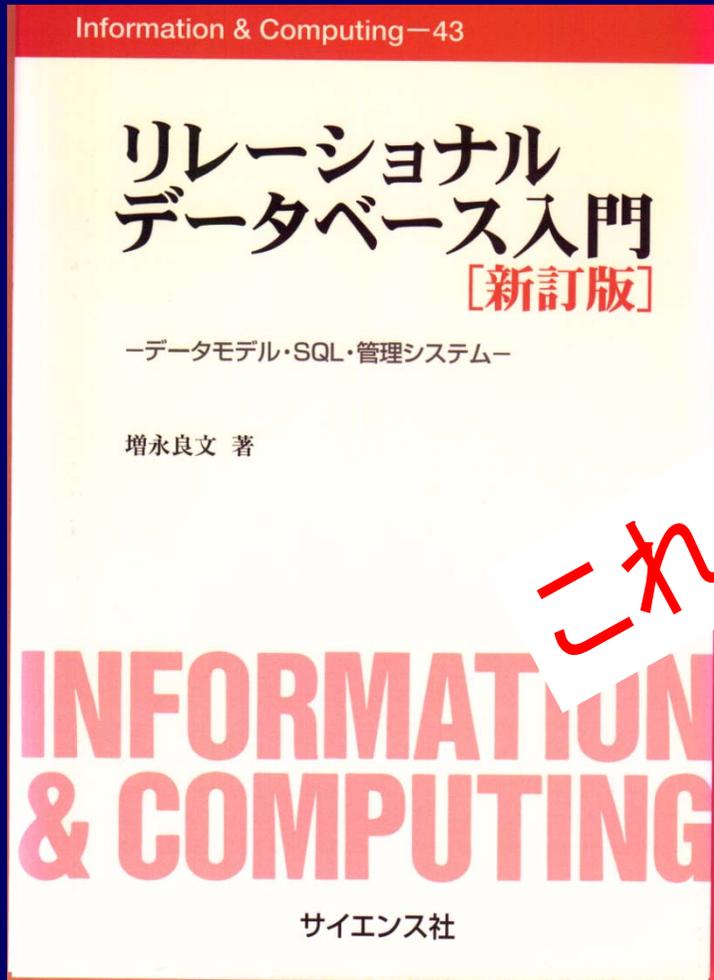
DEIM2013@磐梯熱海 ㊦
2013年3月3日～5日

日本データベース学会 10年の歩み

青山学院大学
社会情報学部
増永良文

Who are you?

日本データベース学会を創った人



2003



2006



渡辺知恵美(先生)の お茶大時代の指導教官

Information & Computing- 1XX

ソーシャル コンピューティング入門

—新しいコンピューティングパラダイムへの道標—

増永良文 著

INFORMATION & COMPUTING

サイエンス社

(イメージ)

2013年3月刊行予定₇

日本データベース学会定款より

第4条 本会は、データベース、メディアコンテンツ、情報マネージメント、ソーシャルコンピューティングに関する人材の育成と科学・技術の振興をはかり、(社)情報処理学会データベースシステム研究会、(社)電子情報通信学会データ工学研究専門委員会、ACM SIGMOD 日本支部と連携しつつ、フットワーク軽く、産学連携、国際的ビジビリティの向上、新学術領域の開拓においてイニシアティブをとり積極的に国内外にメッセージを発信し、学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与することを目的とする。

増永はすごく人間
フレンドリーの軽い人間

これだけで、
データベース向きかも...

学部3年の時に通信理論に目覚めた

- アナログ信号をデジタル化して伝送するとき、伝送効率を最大にするには何値で符号化すればよいか？

e-値で符号化
 $e=2.7182818284\dots$

4年の卒論は半導体実験



第2世代コンピュータ



第3世代コンピュータ



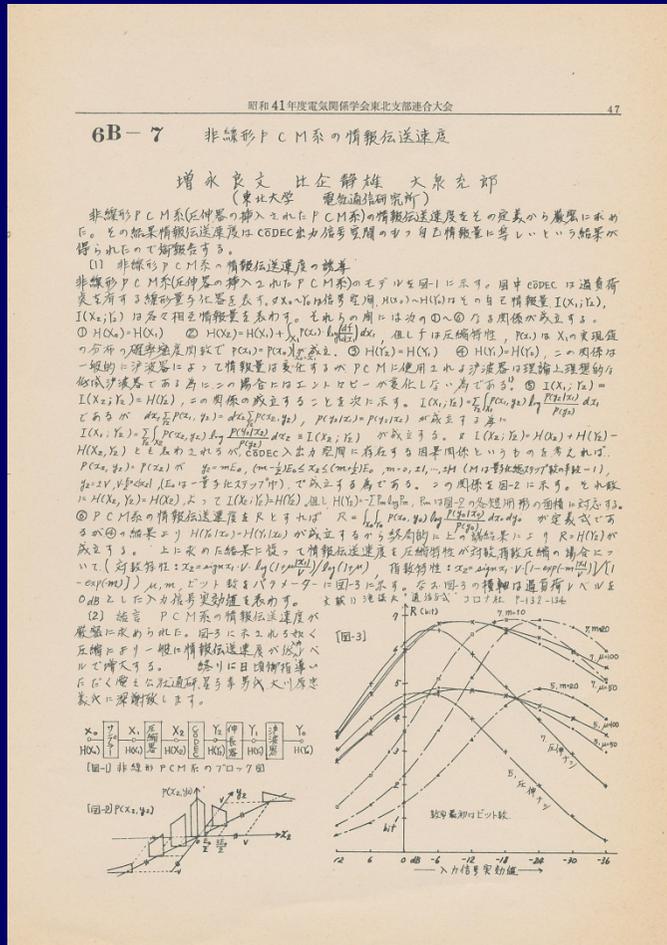
第4世代コンピュータ



第1世代コンピュータ

多分、将来、自分は半導体の研究は
しないだろうから、今やっておこう

修士課程でPCM系の情報伝送速度の計算と明瞭度の実験

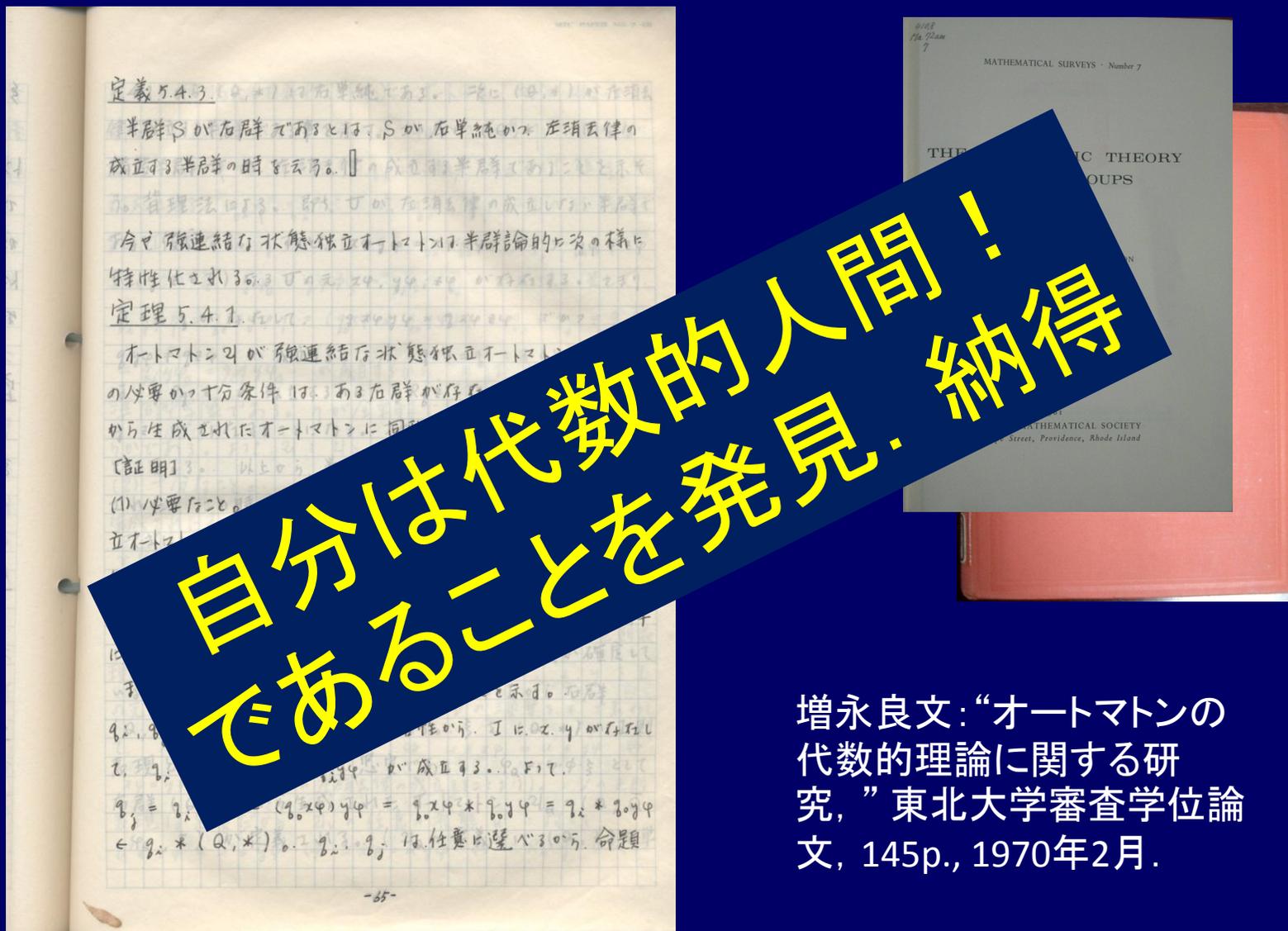


- 量子化雑音がホワイトノイズに比べて、明瞭度が良い

猫の頭をかち割って実験するのは気が進まない！

増永良文, 比企静雄, 大泉充郎: “非線形PCM系の情報伝送速度,” 昭和41年度電気関係学会東北支部連合大会, 6B-7, p.47, 1966年.

博士課程はオートマトンの代数的理論

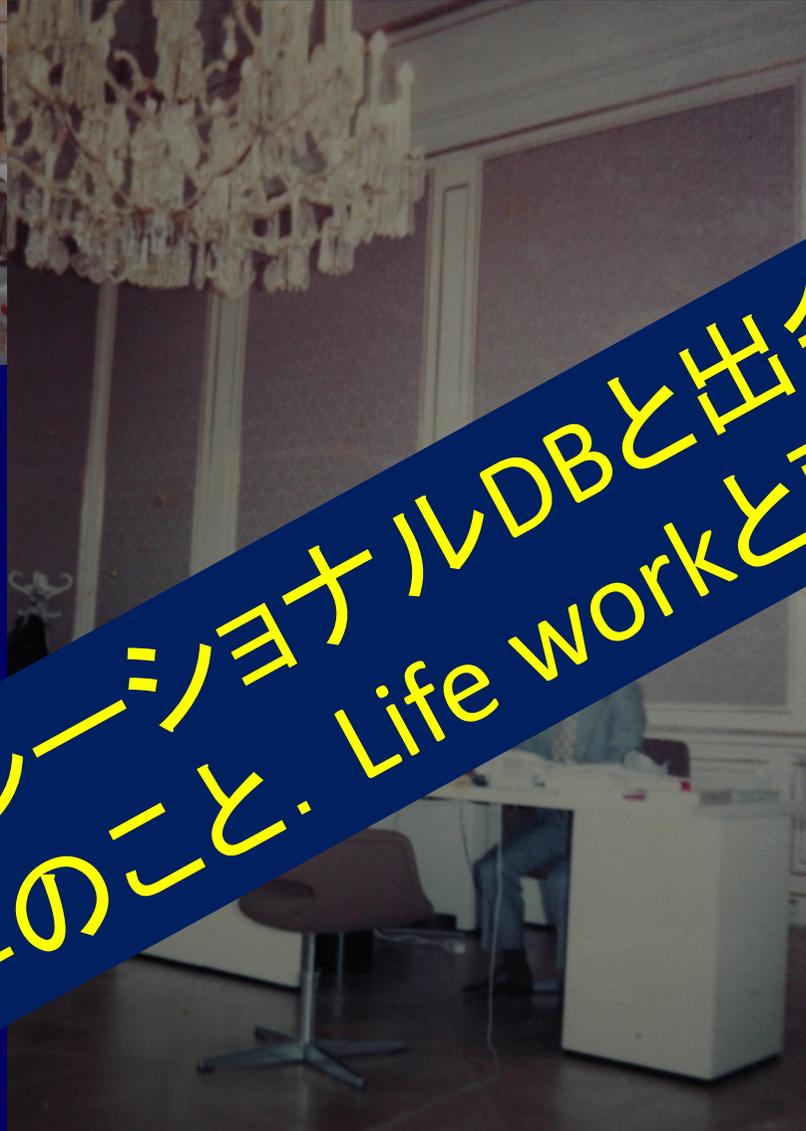


増永良文：“オートマトンの代数的理論に関する研究，” 東北大学審査学位論文，145p.，1970年2月.

IIASA
Computer Science Department
1975 - 1977



正面玄関



ここでリレーショナルDBと出会った！
1975年のこと。Life workと直感した。

海外志向強し



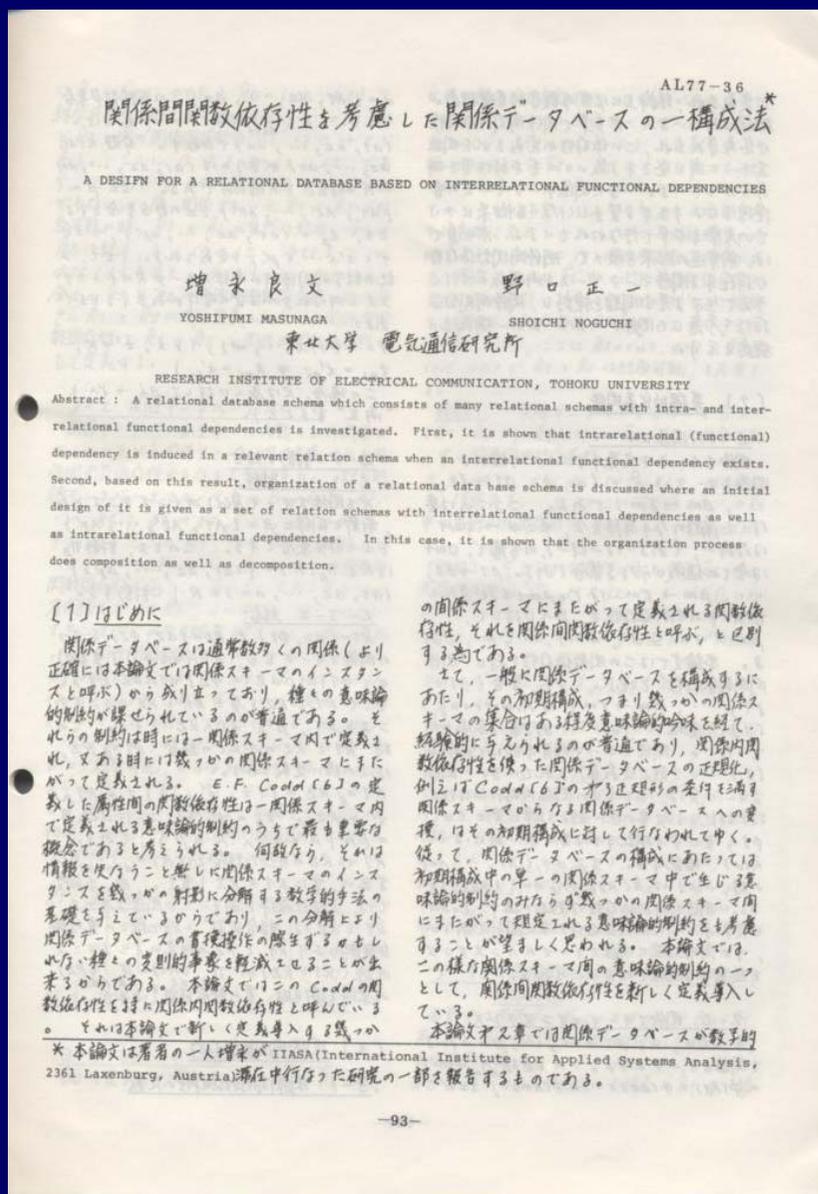
西野氏，長尾教授

1977.3帰国
日本でのDBの研究活動を開始

帰国後、まず行ったことは

- 学会研究会での研究発表開始
 - 電子通信学会, オートマトンと言語研究会
 - 情報処理学会, データベース管理システム研究会
- The 3rd VLDB International Conference@東京への参加

帰国後最初の研究会発表



増永良文，野口正一：
“関係間関数依存性を考慮した関係データベースの一構成法”，電子通信学会，オートマトンと言語研究会，AL77-36，pp.93-99. 1977年9月．

電子通信学会AL研究会(1977.9)

他研究会と共催(合同)の時 学 会 研究会 合同 共催	専門委員長 野口正一 幹 事 片山卓也 幹 事
ホトソンと言語研究会	
日 時 9月21日(水) 9時00 ~ 16時50	
場 所 機械振興会館 地下3階2号室	
議 題	
1) 最小の万能セル空間 [1] — 3状態4近傍 — ○ 芥沢照生 (東大)	
2) 最小の万能セル空間 [2] — 2状態8近傍 — ○ 芥沢照生 (東大)	
3) 1方向非決定性シフトマルチヘッド有限オートマタ並みに1方向非決定性カウンタ機械に関する可計算性 ○ 井上克司, 高浪五男 (山梨大), 中村昭 (広島大)	
4) プログラムの被覆道集合問題 ○ 山下晶 (東北大), 本多波雄 (京大)	
5) 設計言語から記述言語へ (その一例 PL/40) ○ 大筆豊 (東芝総研)	
6) テーグプログラムの実現方式と記憶空間の構造に関する基礎的考察 ○ 坂部俊樹, 柏垣康善, 本多波雄 (京大)	
7) データベースにおけるデータ構造の抽象化について ○ 有次博 (横浜国大)	
① 本月の研究会の頁数は1件本文 10 頁にします。(偶数頁とします) 幹事→事務 局連絡事項 ② 1件の発表時間は 25分質疑 5分 昼休みは 12時10分 ~ 13時10分 ③ 来会者は 名位の予定です。	

他研究会と共催(合同)の時 学 会 研究会 合同 共催	専門委員長 野口正一 幹 事 片山卓也 幹 事
ホトソンと言語研究会	
日 時 月 日 () 時 ~ 時	
場 所	
議 題	
8) 階層的データモデルの形式化 ○ 片山卓也 (東工大)	
9) 構造を持つデータのデータベース ○ 米崎直樹, 榎本肇 (東工大)	
10) リレーショナルデータベースに対する論理関数の応用 ○ 上林弥彦 (京大)	
11) 関係関数依存性と考慮した関係データベースの一構成法 ○ 増永良文, 野口正一 (東北大)	
12) 関係形式データベースにおける第4正規形に関連する判定問題 ○ 萩原兼一, 伊藤美, 谷口健一, 嵩忠雄 (阪大)	
13) 二項関係の扱いと容易にいたリレーショナルデータベースとその応用 ○ 上林弥彦, 田中克己, 矢島脩三 (京大)	
10月の研究会は、ハタン認識と学習研究会および電子計算機研究会と合同で、10月20, 21, 22日九州で開催します。	
幹事→事務 局連絡事項 ① 本月の研究会の頁数は1件本文 10 頁にします。(偶数頁とします) ② 1件の発表時間は 25分質疑 5分 昼休みは 12時10分 ~ 13時10分 ③ 来会者は 名位の予定です。	

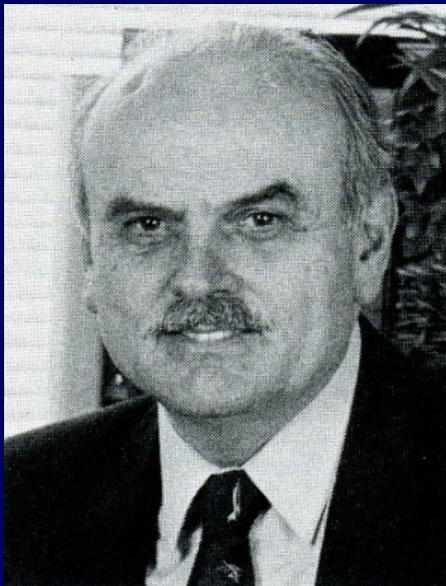
The 3rd VLDB@Tokyo (1977.10)



- 國井利泰先生がGeneral Co-Chair
- **日本でもデータベースの研究をやり始めていた！**
あの、上林弥彦先生がデータベースを！
 - オートマトンと言語研究会や全国大会でお互い意識していた間柄
 - 矢島修三先生からDBをやれといわれた(後日, 上林談)
 - 科学研究費補助金(特定研究)により「情報システムの形成過程と学術情報の組織化」(昭和51年度~53年度)
- 田中克己先生(上林先生と共著)
 - A Relational Data Language with Simplified Binary Relation Handling Capability
- 牧之内顕文先生
 - A Consideration on Normal Form of Not-Necessarily-Normalized Relation in the Relational Data Model
- 故 穂鷹良介先生(共著)
 - Self-Descriptive Relational Data Base
- 鈴木健司先生(共著)
 - Multi-Level Structures of the DBTG Data Model for an Achievement of the Physical Data Independence
- R. Faginと第4正規形の話をした

あのDr. Coddのいる
DBのMecca
IBM San Jose研究所へ行きたい！
1982-1983

オートマトン理論は理論的には面白いの
だけど、結びつく有益なアプリケーションを
どうしても見つけることができなくて...



リレーショナルDBの始祖
Dr. E. F. の言葉
(1982年IBM San Jose研究所にて
筆者がDr. Coddと会って聞き出した言葉)

System R* Projectへ

自律分散型リレーショナルDBMSプロジェクト



1983



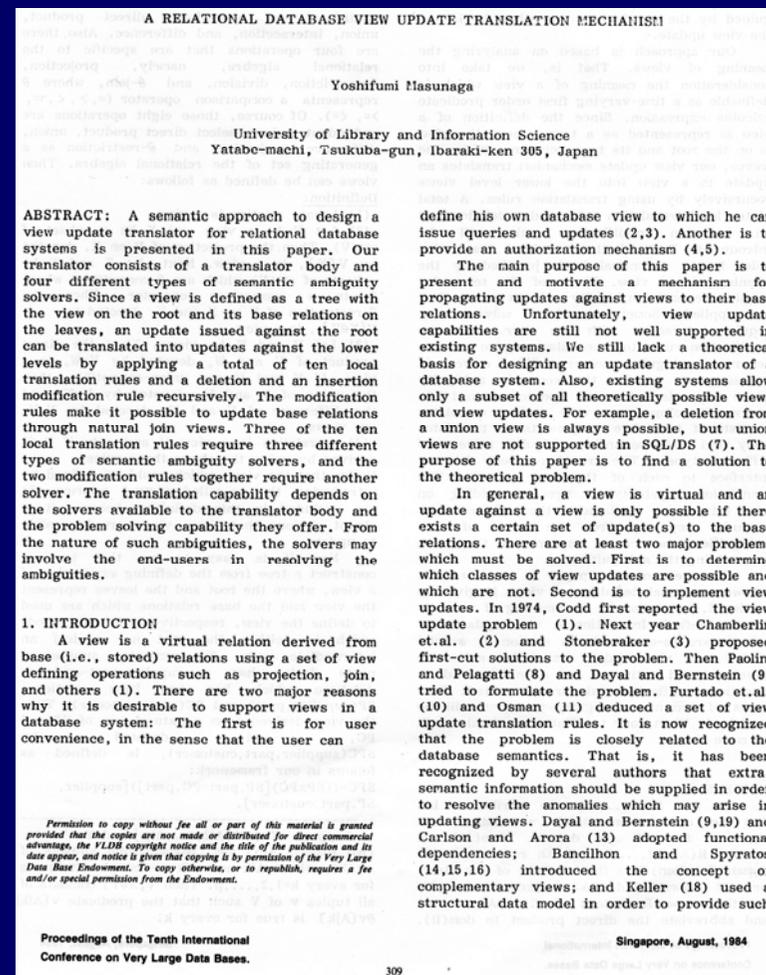
Dr. Pat Selingerと
ICDE2005@Tokyo

Dr. Won Kim

Amelia Fong, Theo HaerderらもOffice mates

10th VLDBで論文発表

- 1984年Singapore開催
- View Updatability
- **Multimedia DBとの出会い**
 - 増永良文：“1984年度第10回VLDB国際会議報告，”情報処理学会，データベース・システム研究会，44-4，12p.，1984年11月.



マルチメディアDB総論

- 情報処理「マルチメディアデータベース」特集
1987.6



情報処理
Vol. 28, No. 6 (1987年6月)

目次

巻頭言
会長就任にあたって……………大野 豊 669

——特集：マルチメディアデータベース——

特集「マルチメディアデータベース」の編集にあたって……………中村 史朗・石井 義興 670
マルチメディアデータベース総論……………増 永良文 671
マルチメディアデータベースのためのデータモデリング……………小島 功・植村 俊亮 685
マルチメディアデータベースの利用者インタフェース……………牧之内顕文・尹 博道 694
マルチメディアデータベースのハードウェア環境……………鈴木 健司 705
オフィス文書の標準化と文書データベースの研究動向……………佐藤 和洋・絹川 博之・大町 一彦 710
OAシステムと文書データベース……………田口 和男・坂下 善彦 721
CAD/CAMへのマルチメディアデータベースの応用……………川越 恭二・真名垣昌夫 730
地図・図面情報処理におけるマルチメディアデータベース……………嶋田 茂 740
画像情報処理におけるマルチメディアデータベース……………木戸出正継・恒川 尚 756
人文科学におけるマルチメディアデータベース……………杉田 繁治 765
フィールド調査データ処理におけるマルチメディアデータベース……………打浪 清一 773
マルチメディアデータベースの技術開発課題……………上林 弥彦 784
マルチメディアデータベース関連文献集……………石井 義興・西本 秀樹 792

報告
第6回アドバンスデータベースシンポジウム……………上林 弥彦・石井 義興・鈴木 健司・三浦 孝夫 804

論文誌梗概……………807
欧文誌アブストラクト……………811
書評……………813
文献紹介……………815
会議案内……………818
雑報……………819
日本学術会議だより……………820
著者紹介……………822
シンポジウム報告……………825
本会記事……………826

会告……………会告(i~xxiii)

オブジェクト指向DBの特集も

- 情報処理「OODBS」特集
1991.5



情報処理学会誌
情報処理
Journal Information Processing Society Japan

VOL. 32
NO. 5
通巻 315 号
(1991年5月)

目次

巻頭言
学会の財務基盤……………杉山元伸

——特集:「オブジェクト指向データベースシステム」——

特集「オブジェクト指向データベースシステム」の編集にあたって……………宮崎 収兄・川越 恭二 489

1. オブジェクト指向データベースシステムの基本

1.1 次世代データベースシステムとしてのオブジェクト指向データベースシステム……………増永良文 490

1.2 オブジェクト指向データベースの基礎概念……………田中克己 500

1.3 オブジェクト指向データベース管理システムのアーキテクチャ……………牧之内 顕文 514

2. オブジェクト指向データベースシステムの実現技術

2.1 オブジェクト指向データベースの質問言語とその処理……………吉川正俊 523

2.2 オブジェクト指向データベースシステムの記憶構造……………加藤和彦 532

2.3 オブジェクト指向データベースシステムにおける並行処理制御……………西尾章治郎 540

3. オブジェクト指向データベースの技術的諸問題

3.1 オブジェクト指向データベースの形式化……………大堀 淳 550

3.2 オブジェクト指向データベース・プログラミング言語……………横田 一正・森田 幸伯・宮崎 収兄 559

3.3 オブジェクト指向データベース設計……………酒井博敬 568

4. オブジェクト指向データベースの応用

4.1 オブジェクト指向データベースとCASE……………川越 恭二・岸 知二・鶴岡 邦敏 577

4.2 オブジェクト指向データベースのCADへの応用……………宇田川 佳久 586

4.3 エンジニアリング業務支援とオブジェクト指向データベース……………石川 博・泉田 義男・川戸 信明 593

5. 次世代データベースシステムの展望……………増永良文・田中 克己 602

書評……………614
文献紹介……………619

オブジェクト指向技術とその応用論文特集

- 喜連川優先生が企画
 - － 増永は共同編集長
 - － 招待論文
 - PERCIO
 - － 鶴岡邦敏(NEC)
 - OOCOBOL
 - － 日立製作所
 - － 冊子は厚さ1cm

1996

増永研
OF ELECTRONICS, INFORMATION AND COMMUNICATION ENGINEERS D-I
EIC 電子情報通信学会
D-I 論文誌 VOL.J79-D-I NO.10 OCTOBER
情報・システムI-コンピュータ 1996

平成8年10月20日印刷 平成8年10月25日発行 第298号 (毎月1回25日発行)

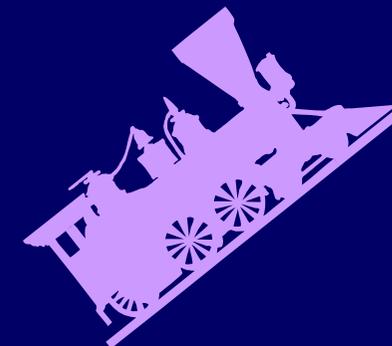
オブジェクト指向技術とその応用論文特集

オブジェクト指向技術とその応用論文特集の発行にあたって——ソフトウェア工学とデータ工学の立場から	増永良文 永田守男	579
オブジェクト指向技術とその応用論文特集の企画にあたって	喜連川優 古宮誠一	585
招待論文		
オブジェクト指向データベース管理システム PERCIO の開発と今後の課題	鶴岡邦敏 木村 裕 渡内みさ 安村義孝	587
オブジェクト指向 COBOL によるビジネスアプリケーション開発環境の進化	横塚大典 前田秀子 高木 涉 西尾高典	597
オブジェクト指向技術の典型事例		
典型事例について	増永良文 永田守男	606
オブジェクト指向データベースを利用したプリント回路基板設計用 CAD システム	飯屋和浩 原 崇	607
ダイヤ関連システムの開発事例	奥村滋樹 石田真也	616
証券市場接続支援システムへのオブジェクト指向技術の適用	伊野谷祐二	621
論 文		
〔言語と計算モデル〕		
オブジェクト間の協調動作を表現する並列計算モデルと言語	鶴林尚靖 大木敦雄 久野 靖	625
演繹オブジェクト指向プログラミングにおける知識ベースを用いたソフトウェア動作制御	柳沢 豊 塚本昌彦 西尾章治郎	635
内包的オブジェクト識別性とその応用	飯島 正	644
組織構造に基づく権限の委譲を伴った分散オブジェクトモデル	飯島 正	656
〔ソフトウェア工学〕		
ソフトウェア開発手法・ツール		
シナリオを利用したオブジェクト指向分析支援	金友 大 永田守男	669
ビジネスオブジェクトモデリング手法「MELON」	岡部雅夫 小原康弘 渡辺香里 羽生田栄一 皆川 誠 佐藤英人	679
類似的分析結果を利用した汎用ドメインモデル抽出による要求分析支援	吉田尚志 永田守男	687
計測システムのユーザインタフェース設計とオブジェクト指向分析プロセスへの PICTIVE 法の実用	山口隆弘 今井 聡 布川博士	695

〈裏面へつづく〉

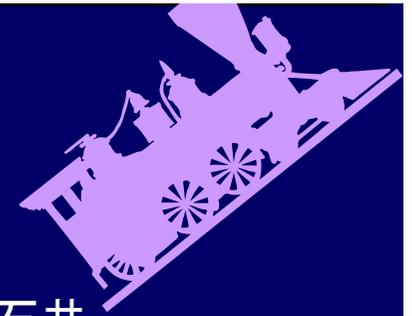
情報・システムソサイエティ
社団法人 電子情報通信学会
THE INFORMATION AND SYSTEMS SOCIETY
THE INSTITUTE OF ELECTRONICS, INFORMATION AND COMMUNICATION ENGINEERS
電子情報通信学会
論文誌(D-I) Vol.J79-D-I No.10 pp.579-896 1996/10/25 東京

年	事象	DBS研	DE研
1970	初めての情報工学科・情報科学科		
1970	リレーショナルデータモデルの提案		
1973	IPSJ データ・ベース研究会設立★	西野	
1973	「広域大量情報の高次処理」開始(3年間)		
1976	「情報システムの形成過程と学術情報の組織化」開始(3年間)		
1976	IPSJ DB特集号		
1976	IPSJ全大初の「データベース」セッション		
1977	データベース管理システム研究会に改名	穂鷹	
1977	3rd VLDB 東京開催★		
1981	1st ADBS開催	酒井	
1982	データベース・システム研究会に改名		
1982	DB技術特集号		
1985	1st FODO京都開催	上林	
1986	DE研設立★		酒井
1986	12th VLDB 京都開催		
1987	MMDB特集号		
1988		牧之内	植村
1989	1st DASFAA Seoul開催		
1989	1st DOOD京都開催		
1990	演繹DB特集号		真名垣
1990	1st DEWS 開催		
1990	Obaseプロジェクト開始		



1991 2nd DASFAA 東京開催★
 1991 dbjapan運用開始★
 1991 OODB特集号
 1992 データベースシステム研究会に改名
 1992 DEフォーラム開始
 1993 SIGMOD-J設立★
 1994 第100回DBS研開催
 1995
 1996 電情OO応用特集号
 1996 重点領域研究「高度データベース」開始
 1997
 1998 5th FODO神戸 開催
 1999 TOD創刊
 2001 20th ER 横浜開催
 2002 DBSJ設立★★★
 2002 DBSJ Letters創刊
 2003 8th DASFAA 京都開催
 2005 DBSJとSIGMOD-J一体運営開始
 2005 21th ICDE 東京開催
 2006 情報爆発・大航海開始
 2007
 2009
 2010
 2011
 2012 DBSJ第3代執行体制へ★

増永 鈴木
 増永 石井
 田中 西尾 増永
 喜連川
 清木 北川 喜連川
 吉川 上林
 石川博 横田治 北川 増永
 佐藤哲
 角谷 川越 横田治
 石川佳
 山名
 中野 川越
 西尾²⁸



なぜ日本データベース学会を
創る気になったのか？

大巻なかつぶ事件！
1991年

大きなかぶ, はなぜ「協力」という概念を伝えられるのか

- 記号論で迫ったテキストの内容記述
- 金印よかとDBワークショップ(1991.7)で好評

こくご 一上



「おおきなかぶ」のテーマが なぜ協力？

- 文章中に協力(に類したこと)
- 文章の構造が意味を折
- 反復の構造を機能

- お爺さんが掛
- お爺さん
- お婆

記号論

お爺さん > 孫 > 犬 > 猫 > 鼠

意気揚々と情報処理学会論文誌に投稿

こんなのは思い付きだという理由で不採録

DBSJ Journalなら一発採録!

DBSJ創設への想い

- DBS研主査 ('91, 92, 93, 94年度)
- SIGMOD-J支部長 ('95, 96, 97, 98)
- その時、痛切に感じていた
 - DBS研は...
 - DE研は...
 - SIGMOD-Jは...

我が国のDBコミュニティは
ひとつ！

DEWS2002@倉敷

パネル討論会「日本のデータベースコミュニティの今後」

司会：横田一正（岡山県立大）

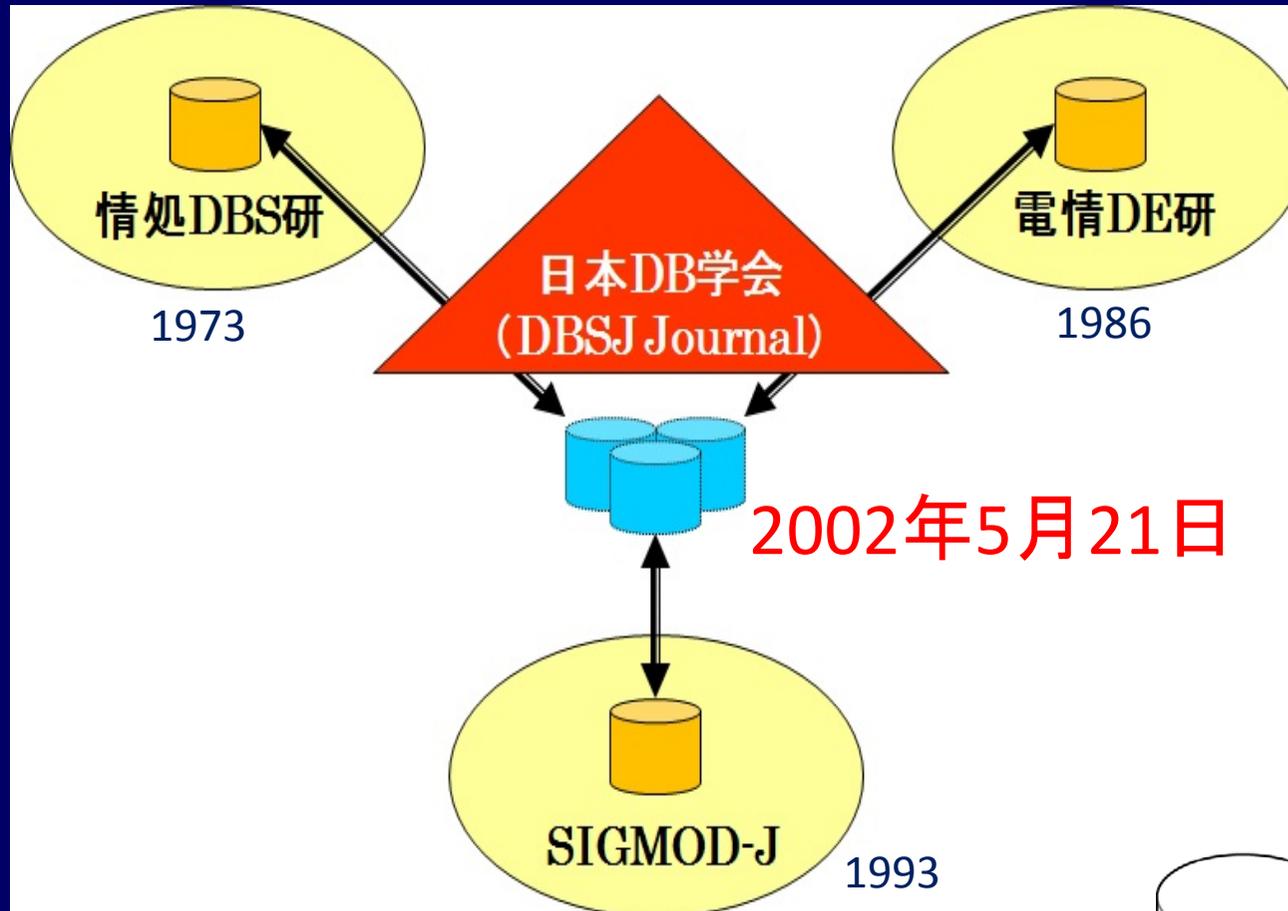
パネリスト：上林弥彦（京大），喜連川優（東大），田中克己（京都大），西村和彦（阪大），増永良文（お茶大），吉川和也（奈良先端大）（敬称略）

「増永さんがそんなにいわはるんなら、創ったらええんとちがうか」（上林弥彦）

増永の話は長い.....



DBSJ創設の理念



第1期DBSJ運営体制

- 2002年5月21日 DBSJ設立総会@NTTデータ

会長	上林弥彦
副会長	増永良文, 國井秀子
理事	清木康(DBS研主査), 吉川正俊(DE研委員長), 喜連川優(SIGMOD-J支部長), 石川博, 岩田修, 齊藤豊, 坂上秀昭, 白田由香利, 田中克己, 西尾章治郎, 福田剛志, 藤田眞彦, 吉田孝, 横田一正
監事	牧之内顕文, 真名垣昌夫

第2期DBSJ運営体制

- 2003年5月23日 第2回DBSJ総会@慶応大学
三田キャンパス

会長	増永良文
副会長	田中克己, 國井秀子
理事	石川博(DBS研主査), 横田治夫(DE研 委員長), 北川博之(SIGMOD-J支部長), 岩田修, 上林弥彦, 喜連川優, 清木康, 齊藤豊, 坂上秀昭, 白田由香利, 西尾章 治郎, 福田剛志, 藤田眞彦, 吉川正俊, 吉田孝, 横田一正
監事	牧之内顕文, 真名垣昌夫

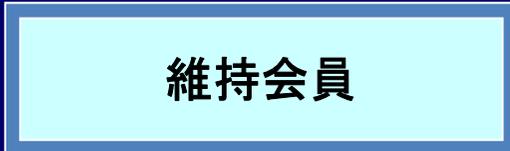
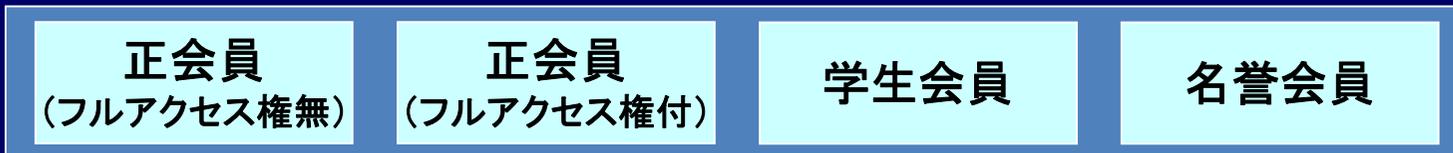
DBSJの姿

dbjapan

<http://www.dbsj.org>

DBSJ
SIGMOD-J

理事会 総会 評議会



DBS研

連携

DE研

開催した理事会・総会・評議会

- 理事会
 - DBSJ運営の意思決定機関
 - 2002年10月1日第一回
 - 以後, 2ヶ月に一度
 - 2012年5月で第58回
 - 他に, e-理事会
- 総会
 - 年に一度
- 評議会
 - 年に1~2回

DEIMはDBSJの年次大会

- 学会は年に一度大会を開催しないと
いけない
- DEWS2003@片山津[🌊]を第1回DBSJ
年次大会にしてもらった
 - MPMeisterを使用して全発表を動画撮
影・配信
 - フルアクセス権付の正会員

学会の映像ネット配信

日本データ
ベイス学会 説明資料も収録

学会で演者が発表する
映像やスライドなどの資
料を一括して希望者にネ
ット配信するサービス

を、日本データベイス学
会は三十日から始める。
学会に出席できなかった
り、学会の他の会場での

講演を聞き逃した場合で
も、現場にいるような感
覚で再現映像を見ることが
できる。

会議記録は演者の姿や
音声を収録し、スライド
やビデオを使った説明に
入る場面では、説明画面
を同時に映し出す。この
ため利用者は現場で講演
を聴くような感覚で見ることが
できる。リコーが開
発した編集用ソフトを

使い、三月に石川県で開
いた学会での発表約百四
十件を収録した。
学会などの会議の記録
の残し方は、会議録の刊
行や発表資料をネット上
で公開する方法などが従
来取られている。映像と
資料を組み合わせた形で

の記録は大規模な学会で
は初めてという。
今回の配信サービス
は、発表資料の著作権に
考慮し、会員向けに限っ
て実施する。今後課題な
どを洗い出し、一般向け
に公開することを検討す
る。

コミュニティはひとつを
どう実現するか？

コミュニティはひとつをどう実現するか？(1)

- DBコミュニティ全員がDBSJの会員
 - DBS研, DE研登録員年会費無料
 - SIGMOD-JとDBSJは一体運営
 - dbjapanはDBSJのメーリングリスト

設立以来10年の会員数推移

調査年月日	正会員数	学生会員数	維持会員数	備考
2002.09.30	236	108	5	注1)
2003.03.25	292	138	8	注2)
2004.07.05	368	278	10	注3)
2005.06.28	427	165	11	注4)
2006.03.09	1085	274	12	注5)
2007.06.28	1231	約300	23	注6)
2008.06	1380	約300	23	
2009.06	1510	約300	19	注7)
2010.06.25	1395	約300	16	
2011.06.10	1401	約300	16	
2012.06.15	1509	約300	16	注8)

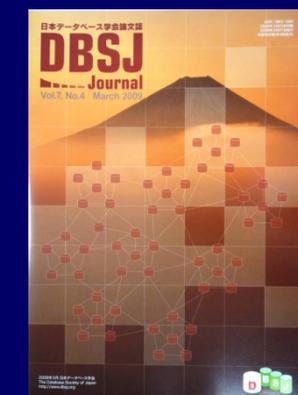
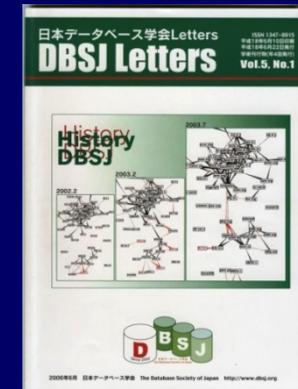
コミュニティはひとつをどう実現するか？(2)

- 論文誌を刊行する
 - TODとの競合を避ける
- 日本データベース学会 Letters
 - 座長推薦 + 自由投稿
 - 一気方式による査読
 - 2002年度創刊 (DBSJ Letters, Vol.1, No.1)
 - 2002年10月25日刊行
 - 2002年7月開催の夏のデータベースワークショップ@日光鬼怒川から座長推薦の17編の論文を収録



論文誌刊行事業

- 2002年度創刊 (DESJ Letters, Vol.1)
- 2008年度 (DBSJ Journal Vol.7 季刊)
- 2011年度 (DBSJ Journal Vol.10 年3回)
 - iDB, WebDB, DEIMから座長推薦
 - + 自由投稿
 - 編集委員20名
 - 19編の論文を収録
- 評価基準
 - 萌芽性, 速報性, 新規性, 有用性, 完全性, 信頼性
- 英文論文⇒IMTに収録
- 日本データベース学会論文賞の対象



コミュニティはひとつをどう実現するか？(3)

- 表彰をする
- 「学会創ったら、表彰せにゃあきまへん」
 - 西尾章治郎氏の忠言
- 第1回DBSJ功劳賞@DEIM2003
(=第1回DBSJ年次大会)
 - 受賞者:横田一正(岡山県立大)氏
 - dbjapanの運用10年に対する功績
- 功劳賞, 上林奨励賞, 業績賞, 論文賞



功劳賞受賞者一覽

- 功劳賞

敬称略

- 第1回(平成14年度) 横田一正
- 第2回(平成15年度) 石井義興
- 第3回(平成16年度) 國井利泰
- 第4回(平成17年度) 穂鷹良介
- 第5回(平成18年度) 牧之内顯文
- 第6回(2007年度) 酒井博敬
- 第7回(2008年度) 鈴木健司
- 第8回(2009年度) 真名垣昌夫
- 第9回(2010年度) 西尾章治郎
- 第10回(2011年度) 有澤博
- 第10回(2011年度) 田中克己

- 特別功劳賞

- 2004年度 上林弥彦

上林奨励賞受賞者一覧

敬称略

- 上林奨励賞

- 第1回(平成16年度) 石川佳治, 有村博紀
- 第2回(平成17年度) 片山紀生
- 第3回(平成18年度) 櫻井保志
- 第4回(2007年度) 鬼塚 真, 田島敬史
- 第5回(2008年度) 森嶋厚行
- 第6回(2009年度) 小山聡, 豊田正史
- 第7回(2010年度) 原隆浩, 三島健
- 第8回(2011年度) 手塚太郎

業績賞受賞者一覧

敬称略

- 業績賞
 - － 2009年度
 - 日立製作所ソフトウェア事業部
 - － 2011年度
 - 日本PostgreSQLユーザ会

論文賞受賞者一覽

敬称略

- 第1回 Vol. 1&2 豊田正史, 喜連川優
- 第2回 Vol. 3 田中昌宏, 白崎裕治, 本田敏志,
大石雅寿, 水本好彦, 安田直樹, 増永良文
- 第3回 Vol. 4 篠原昌子, 林 秀樹, 原 隆浩,
西尾章治郎
- 第4回 Vol. 5 櫻井茂明, 北原洋一, 折原良平
- 第5回 Vol. 6 石川佳治
- 第6回 Vol. 7 平手 勇宇, 片瀬 弘晶, 山名 早人
- 第7回 Vol. 8 喜連川優, 合田和生
- 第8回 Vol. 9 中山浩太郎
- 第9回 Vol. 10 伏見卓恭 齊藤和巳 風間一洋

コミュニティはひとつをどう実現するか？(4)

- DBSJとSIGMOD-Jは一体運営する
- 北川博之SIGMOD-J支部長とのコラボ
 - メーリングリストの統合 (dbjapan)
 - 両学会の会員資格の統合
 - SIGMOD-J法人会員からDBSJ維持会員への移行
 - 増永良文・北川博之連名の「日本データベース学会とACM SIGMOD日本支部の一体運営について—会長・支部長見解—」を報告@第4回日本データベース学会総会@奥入瀬溪流グランドホテル(2005年7月14日)
- 2007年度から完全一体運営を開始
 - 評議会設立

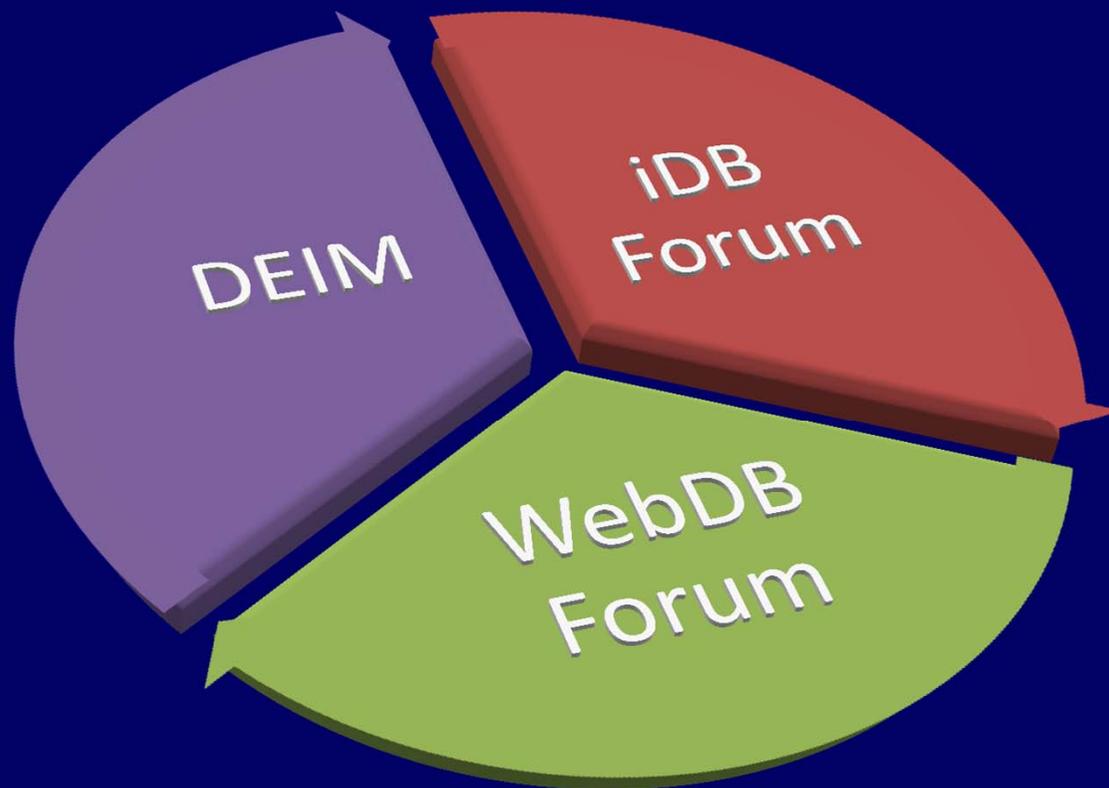
コミュニティはひとつをどう実現するか？(5)

- イベントを統一する
 - 我が国のDBカレンダーを策定する.
 - 2008年度から実施したい.
- 琢磨ミーティング
 - DBWeb2006@京大の終了後, 「第1回DBSJ将来検討委員会(仮称)」を開催. 以後, 4回, 計5回
 - 田中克己(DBSJ副会長(学界)), 北川博之(DBSJ副会長(SIGMOD-J担当)), 石川博(DBS研現主査), 角谷和俊(DBS研次期主査), 佐藤哲司(DE研現委員長), 川越恭二(DE研次期委員長), 清木康(DBS研主査経験者), 西尾章治郎(DE研委員長経験者), 喜連川優(DE研委員長経験者), 横田治夫(DE研委員長経験者) + 増永

DBカレンダー(2008年度)



DBカレンダー(2009年度)



DBカレンダー(2010年度～)



年3回イベント化に伴いDBSJ Journalも年3回刊行

コミュニティはひとつをどう実現するか？(6)

- 産学連携推進
 - 喜連川産学連携推進委員会委員長
 - 日本データベース学会・日立製作所共催日立HiRDBアカデミック支援プログラム
 - 日本データベース学会・富士通共催富士通Shunsakuアカデミック支援プログラム
 - 日本データベース学会・東芝ソリューション・東芝共催東芝ソリューションTX1アカデミック支援プログラム
 - 日本データベース学会・日立製作所共催uCSDPアカデミック支援プログラム
- 国際化
 - CCF-DBS連携
 - DASFAA 2012@筑波大学(北川博之General Chair)
- News Letters

コミュニティはひとつをどう実現するか？(8)

- **機構改革**

- 機構改革検討委員会設置(2009年5月理事会承認)
- 石井義興(委員長), 清木康(副委員長), 田中克己, 北川博之, 土田正士, 増永良文
- 1年半にわたり計15回(各2時間半)全員が出席

- 2011年1月21日理事会に報告・承認

- (a) 2010年6月30日に開催された第9回DBSJ総会で, 本会の目的を謳う第4条を改訂したこと.
- (b) 2011年6月18日に青山学院アスタジオで開催された第10回DBSJ総会で, 本会の役員を規定する第14条を改訂し副会長は「3」名まで置けること, また21条を改訂して役員の任期は「2」年としたこと.
- (c) 同じく, 第10回DBSJ総会で, 定款第15条を改訂し, 役員の改選にあたっては, 「**役員候補者選考委員会**」を置いて理事会が候補者を選出するとしたこと.

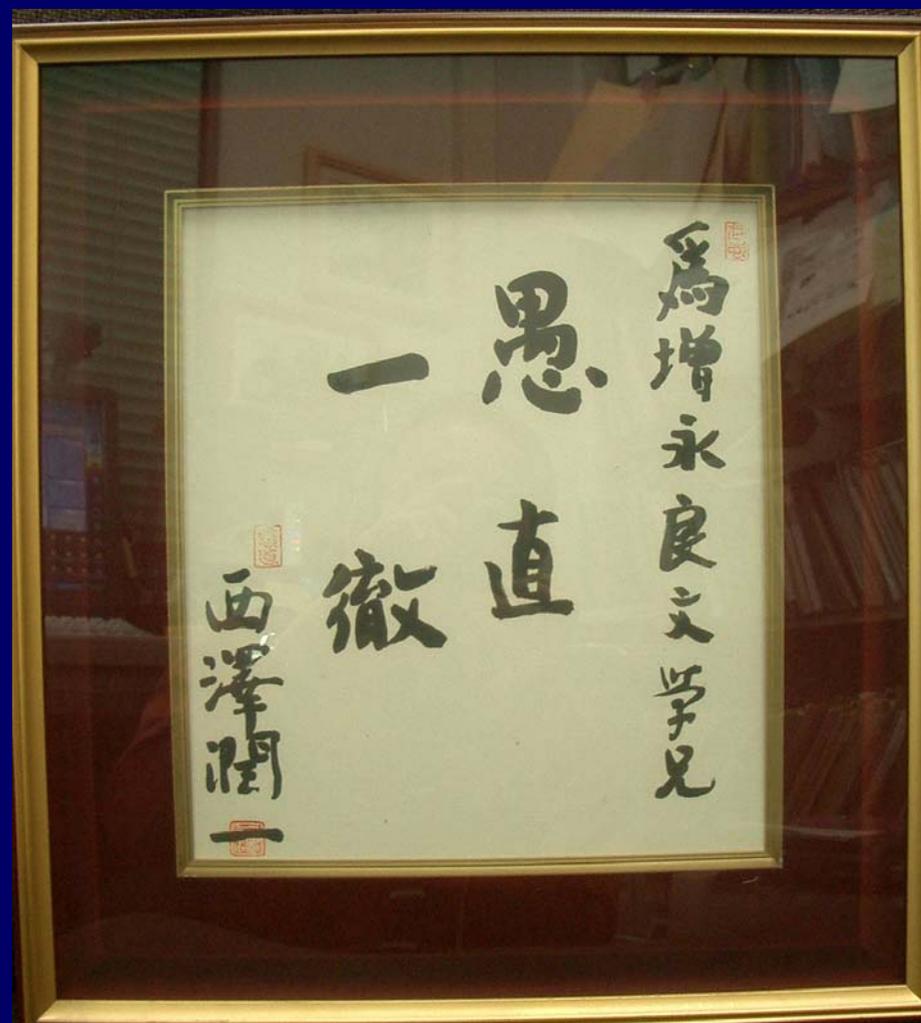
第3期DBSJ運営体制

- 2012年6月23日 第11回DBSJ総会@青山学院アスタジオ

会長	西尾章治郎
副会長	北川博之, 横田治夫, 土田正士
理事	山名早人(DBS研主査), 中野美由紀(DE研委員長), 川越恭二(SIGMOD-J支部長), 清木康, 石川佳治, 喜連川優, 小口正人, 岡本真, 松澤裕史, 原嶋秀次, 森嶋厚行, 木俵豊, 橋本隆子, 角谷和俊, 国島丈生, 赤間浩樹, 関根裕, 白石雅己, 鈴木俊宏
監事	安達淳, 飯沢篤志

Epilogue

私のかっての座右の銘



揮毫：西澤潤一先生 60

この10年，私を支えてきた言葉

挑戦
無限の可能性を信じさせる響き



想

ご清聴ありがとうございました